

1. 中部地方の風景街道（登録）

	中部地方のルート
1	日本風景街道「伊勢熊野みち」
2	ぐるり・富士山風景街道
3	二つのアルプスに抱かれた「信州伊那アルプス街道」
4	新しさからなつかしさ塩の道 ～中馬街道～
5	こころのふるさと“木曾路”中山道
6	渥美半島菜の花浪漫街道
7	信州みのわ花街道
8	古道ロマン「東山道」
9	“なごみの伊豆 なごみの道” 日本風景街道
10	浜名湖サイクリングロード

	中部地方のルート
11	美濃白川四季彩街道
12	民俗芸能と南北朝歴史浪漫のみち 「秋葉街道」
13	南信州パノラマ街道
14	きらり三橋志摩ゆうやけパール街道
15	東海道「駿河2峠6宿風景街道」
16	信州遠山郷「天に至る まつり古道」
17	大井川流域「南アルプスへの道・お茶街道」
18	「合掌・さくら」飛越街道～世界遺産をめぐる道」
19	飛騨高山風景街道
20	下呂湯めぐり街道

全国最多(20ルート)

2. 静岡県の『道の駅』と日本風景街道



1. 「ぐるり・富士山風景街道」

- 沿道風景整備（看板撤去と集合化）
- ぐるり・富士山トレイル（富士山古道）

2. 日本風景街道「なごみの伊豆 なごみの道」

- 下田街道の街道整備
- 駿河湾「海越え 富嶽三十六景」
- 「伊豆立ち寄りステーション」常設化

3. 東海道「駿河2峠6宿風景街道」

- 「東海道2峠6宿」の歩き道プロジェクト
- 道の駅ミュージアム
- 道のエコミュージアム基金
- 清水次郎長生家の管理

4. 大井川流域「南アルプスへの道・お茶街道」

- 大井川ティーロード計画の推進

『道の駅』(22駅)と日本風景街道(5ルート)連携

3. 日本風景街道について—私考—

風景とは—

風景は、暮らしの中でつくられてきた「生活景」

「内部の人（定住者）は、身の回りの生活景は見ないが、外部の人はその生活景を未知（知らない風景、失った風景）の風景として発見する。外部の目に触発され、やがて自らの生活景に注視する」（直島の家プロジェクトより）

街道とは—

「道といっても大幹線には古来、日々文化が往来していて、日々擦れからしている。その点、**街道には日本のモトとのモトのような種子が吹き溜まっていて、日本人のなまの体臭が嗅げるかもしれない。**そう
いうことで、野であれ山里であれ、吹き溜まりをさがして、あちらこ
とら歩いてみたい」（司馬遼太郎著、昭和46年1月1日号、ホストの言葉より）

道と人・地域の新しい関係づくりが始まる



「日本風景街道」の狙い

4. 静岡 道と地域・人の係わり

(1) 道のエコ・ミュージアム

道が進化すれば、道に係わる地域の運動も進化する。

道の進化 用・強・美 そして・・・(賢い使い方)

(2) “手足つき” 道のコミュニティ・シンクタンク

必要条件

課題

心

⇒ 関心、思い入れ

思いの継承

●初代の思いは継承しがたく！！

技

⇒ 知恵と技術

収集・分析・蓄積・継承

●政策形成能力、マネジメント力、専門性

体

⇒ 仕組みと制度

仕組みと制度の開発

●安定的、継続的に社会に受け入れられる仕組み

5. 民官連携について

(1) 交流と連携の条件

- 1) 信頼と互惠の関係を築けるか。
- 2) 連携の主体性の確保(心掛け: 自らの舵を手放さな力)

(2) 発端のタイプ

- 1) 押し込み型(提案型) 自噴型
- 2) 持ちかけられ型(依頼型) シャワー型

(3) 連携のタイプ

- 1) 民民型
- 2) 民官型
- 3) 民企型
- 4) 官官型(仲介)

「際」に秘訣あり

(4) 民官連携の秘訣

互いに奥座敷に入り込まない。
接木のように。

連携を阻む要因

1. 地理・地形の隔たり。
2. 制度の違い。
3. 思いの違い。
4. 利害の違い。

6. 「日本風景街道」私考

(1) 分かりにくさの原因

●目的の混在

●パートナーシップの考え方の違い

(2) 心・技・体の未成熟

●思いの偏重

●技と体の開発を軽視(結果的に)

(3) 制度の完成度を上げる民官の努力

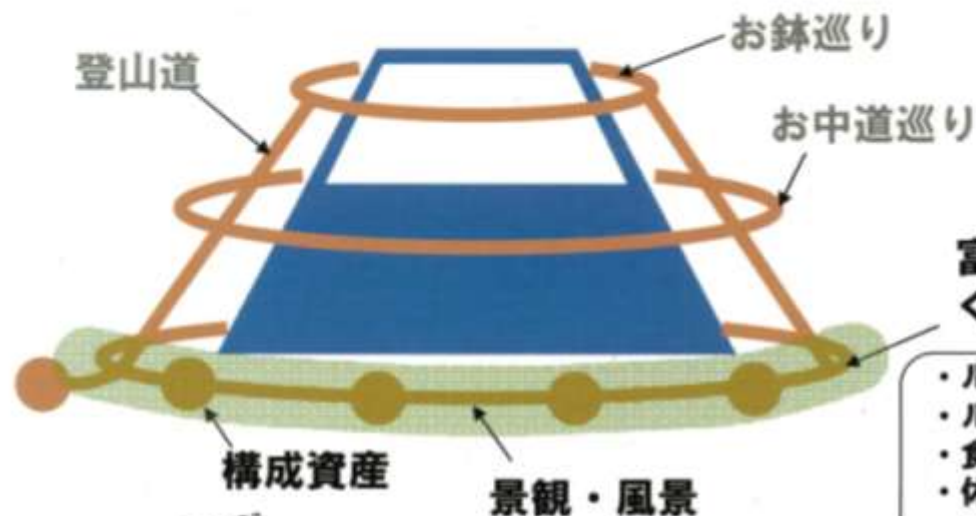
●官民双方の役割と責任の曖昧さ?

社会的認知度,いま一歩!!

ルートブランド力の弱さ!!

三重苦解決の足かせ

富士山世界文化遺産を巡る 富士山古道 “ぐるり・富士山トレイル”



古来から続く富士山信仰
お鉢巡り、お中道巡り、登山道
など幾つもの“祈りの道”

富士山古道 ぐるり富士山トレイル

- ・ルートの設定、案内標識、駐車場
- ・ルール（憲章）づくり、ガイドシステム
- ・食のネットワーク
- ・休み処（情報ST）協定 etc
- ・NPO、観光協会の協力により実施

Concept(案)

富士山世界文化遺産の構成資産の保存と次世代への伝承。そして内外の人々が身近に世界文化遺産の価値と魅力、それらを育んできた地域を体感してもらう、一つの具体的な方法として、「世界遺産を巡る富士山古道～ぐるり・富士山ロングトレイル～（仮称）」のルートを確立していく。

健康志向、歴史・文化体験指向の高まりの中、様々な「歩き旅」に対する関心が高くなっている。古来から続く伝統的な「祈りの道の心」と現代的な「歩き旅の楽しみ」、さらに健康的なウォーキングのノウハウを兼ね備えたものとする。

富士山世界文化遺産の25構成資産(静岡県・山梨県)を巡る

